特249 3 8
209

教化資料第八十五輯

# 現代思潮批判

大川周明述

財團法人中央教化團體聯合會

始

特249
209

# 現代思潮批判

大川周明 法學博士

昭和四年五月

教化資料八十五輯

財團法人中央教化團體聯合會

## 一

現代思潮批判と云ふ演題は、本會の主催者が私の爲に擇んだものであります。この演題の下に、演題に適はしい講演を試みることは、存分に時間を與へられても、尙且困難な仕事であります。然るに私は、此の困難なる仕事を、僅か一時間內外で勤め了ふせるやうに言付かつて居ります。其上私は、東北人の常として流暢に言葉が出ませんから、一時間としても他の三十分位にしか當りません。從つて私の仕事は、二重にも三重にも困難になる次第であります。この困難を切り拔けるためには、問題の範圍を制限する以外に道がありません。それ故に私は、現代思潮と云ふことを、國民の生活を現實に支配して居る若干の重要なる思潮と云ふ意味に制約し、其等の思潮に就て私の判斷を申上げることに致します。

## 二

太陽の下に新しきものなしと古人が道破しましたやうに、現にいろ〳〵な思想が吾々の周圍に渦卷いて居りまするが、全く新しいと呼び得るものは一つとして無いやうに思はれます。總ては皆な新しい名前を與へられた古い思想、若しくは精密なる論理を與へられた

古い思想に過ぎないやうであります。四書五經を讀んだだけでも、又はバイブル一卷のうちにも、乃至はプラトンの遺著のうちにも、今の世の一切の思想、少くも思想の胚種が、一つ殘らず隱現出沒して居ります。たゞ時代々々によつて、其等の數々の思想の一面が、特に力說され敷衍されて、所謂時代思潮として勢を得來るのであります。

さて現代に於ける思潮のうちで、吾々の生活と最も重大なる關係を有するものは、言ふ迄もなく經濟に關する思想であります。時代によつては、宗教が人生最大の關心事であつたことがあります。かゝる時代には宗教が人生に對して至高の權威を有し、從つて人々の精神は宗教問題に傾倒されました。或る時代には政治が最大の關心事となり、人心は政治問題に旺向したのであります。然るに今日最も力强く人心を支配するものは、疑もなく經濟問題であります。而して曾て宗教改革が唱へられ、また政治革命が唱へられたやうに、今日は經濟革命軍が唱へられて居るのであります。

宗教が至高の權威を揮つて居る時代には、國家又は社會の改革は、宗教の革新に待たねばなりませぬ。君主が無限の權力を專らにした時代には、國家又は社會の改革は、當然政



治の革新に待たねばなりませぬ。かくて歐羅巴に於ては、中世に於ける宗教萬能の時代に釀成された腐敗から脫却するために、宗教改革が行はれました。また專制君主の壓迫から解放されるために、佛蘭西革命が行はれました。而して更に資本家の橫暴から脫却するために、露西亞革命が行はれました。この露西亞革命が取りも直さず經濟革命であります。一層具體的に申せば、共產主義に基く經濟革命であります。吾等は此の革命を眼前に眺めつゝ、世界思潮の旺向するところを洞察して、現代に行はれる經濟思想を檢討し、進んでは共產主義が果して經濟生活の正當なる改造原理なるや否やを批判せねばなりませぬ。

## 三

經濟學者が如何に繁瑣なる說明を加へようとも、經濟的活動とは所詮衣食住のための活動を云ふのであります。而して其の自然的根據は、人間は働かなければ生命を保持し長養して行くことが出來ぬと云ふ簡單明瞭なる事實であります。然るに食ふことも、住むことも、また着ることも、人間あつての事であります。而して人間の本質は、道德的主體たることに在りまするが故に、必然の論理として、人間の經濟的活動は、人生全般を律する道

德的法則に從はなければならぬのであります。

多くの經濟學者によれば、經濟的活動は人生に於ける特殊の一面であり、且獨立せる一の領域を有し、經濟的生活として其自身の法則を有つて居ると主張されるのであります。而して或る學者は、此の獨立の法則を有する經濟的一面こそ、人間の活動の在らゆる方面のうち、最も重大なる價値を有するものであると主張して居ります。

かゝる主張の間違つて居ることは、露西西の哲學者ソロギエフが、其の不朽の大著『善の辨證』の中に明快深切に指摘して居る通りであります。ソロギエフは獨立せる經濟的法則なるものゝ存在せぬことを、最も判り易い例によつて證明して居ります。それは物價高低の法則であります。此の法則は世間周知のもので、物價は需要供給の關係によつて支配されると云ふのであります。即ち買手が多くて品物が少なければ物價は騰貴し、買手が少くて品物が多ければ物價は低落すると云ふ法則であります。この法則は動かすべからざるものゝ如く考へられて居りまするが、實は如何に買手が多くて品物が少なからふが、正直寛大なる商人であれば値段を上げずに品物を賣る事が明白に可能であります。現に私は關



東大地震の直後、東京全市が食糧の不足に苦しんで居た際、青山の一食糧品屋の店頭で、震災以前よりも却て廉價に罐詰を賣て居る事實を見ました、而して私自身も其を買つたのであります。此の青山の一商人は、經濟學者が不可侵の法則として居る物價の原則を、何の苦もなく打破つて居るのであります。私の知つたのは其の青山の商人一人ですが、他にも必ず同樣の仁人があつた事と思ひます。

或は斯う言ふかも知れませぬ、さふ云ふ人は千人に一人、萬人に一人しかない、それは例外であるが故に、これを以て物價に關する法則の獨立性を動かすに足らぬと。併しながら個人の意志の代りに國家の意志が發動することによつて、此の原則は直ちに躁躙されるのであります。個人の場合はなるほど例外と云ふ事が出來るかも知れませぬ。併し若しも國家が必要と認めて物價取締令を出しさへすれば、需要供給の關係如何に拘らず、若しくは需要供給の關係を全く無視して一定の價格以上に商品を賣らせない事が出來ます。品物が不足でも安く賣ると云ふ事は、個人の場合では主觀的道德でありますが、其の主觀的道德に代つて國家の意志が動き出せば、日本國と云ふ非常に廣い經濟範圍全般に亘つて、物

價の法則が直ちに破り去られるのであります。

一體法則なるものは、破るべからざる事を原則とするのであります。若し經濟的法則が、經濟學者の云ふやうに自然的・必然的のものであるならば、國家の干渉は此の自然的・必然的なる法則の前に無力でなければなりませぬ。國家が全力を擧げてやつて來ても、自然的・必然的法則によつて支配される大川の頭髪一本をも、白くし又は黑くする事が出來ないのであります。而も國家の命令一下すれば、白米一升を五十錢以上に賣らせない事も出來るし、また煙草を專賣して世界無比の高價を維持する事も出來るのであります。かく國家の干渉によつて經濟的法則が左右されると云ふことは、吾々の經濟的生活が獨立性を有つて居ないことを立證するものであり、同時に經濟的生活は、人生の他の方面によつて牽制され、又は統制されなければならぬと云ふ事を示すものであります。



## 四

今日經濟學の思想の上に、互に相容れざる二つの主義があります。一はマンチエスター派の流れを汲む自由主義であり、他はマルクスの流れを汲む社會主義であります。此等の二つの主義は、互に鎬を削つて相爭つて居るに拘らず、其の據つて立つところの經濟と云ふ根本觀念に於ては一致して居るのであります。アダム・スミスを祖師とするマンチエスター派の學者のうちで、其の思想を最も包み隱すところなく發表して居るのはコブデン及び稍後れてブライトであります。コブデンの說に從へば、人間の本質は經濟的主體たることに在ると云ふのであります。即ち人間は先づ第一に經濟人であり、然る後に學校の先生でもあり、俱樂部員でもあり、宗教信者でもあり、何處かの國民でもあると云ふのが、コブデンの思想であります。從つて國家又は社會は、經濟人たる人間の本質を發揮させる方便として役立つ限りに於て存立の意義がある。それ故に國家は、出來る限り個人の經濟的活動を妨げぬやうにしなければならぬと云ふのが、英國自由主義の根本主張であります。

このマンチエスターの派の主張は、社會主義者が不俱戴天の敵とする英國資本主義の根本思想となつて居ります。然るに社會主義其者も、其の經濟學の最後の基礎たる根本概念に於て、不思議にもマンチエスター派の夫れと一致して居るのであります。即ち社會主義

者もまた、經濟財の生産能力を以て、人間の價値を定める標準として居るのであります。而して其の唯物史觀が最も明瞭に示す如く、人間の生活に於て最も重大なる意義を有するものは經濟的一面であり、人間社會の一切の文化、人間社會其者の組織は、悉く經濟を土臺として築き上げられたものに外ならぬと云ふのであります。從つて若し人間を向上させやうと思ふならば、他に如何なる手段もなく、唯だ社會の經濟組織を改善する一途あるのみだと主張して居ります。

かくて此等の二つの主義は、經濟的生活を重んずる點、即ち人間生活に於て物に最大の價値を置く點に於て、其の據つて立つところの根本思想を同じくするものであります。故に資本主義と社會主義との爭ひは、主義の戰ひに非ず、同じ主義の上に立ち乍ら、唯だ其の實現の範圍に關する爭ひに過ぎませぬ。即ち一方純乎たる資本主義に於ては、物質的富を資本家階級と呼ばれる少數の人々の間に限らうとし、他方社會主義に於ては、物質的富を多數の勞働者間に分け與へやうとするのであつて、一方は狹い範圍に、他方は廣い範圍に、彼等の最も貴ぶところの物を所有せしめやうとするのであります。かく物質に至高の



價値を置き、經濟に最大なる意義を認めるが故に、物質的享樂が人間の本當の幸福であり、從つて人生の目的は物を多く所有することに在るとする點に於ても、此等の二つは同一の思想を有つて居ります。

## 五

是に於て私は『大學』の一節を想起せざるを得ませぬ。それは『君子は財を以て身を發し、小人は身を以て財を發す』と云ふ一節であります。身と云ふのは人格のことで、財を以て身を發すとは、物を以て人格の長養に役立たせること、身を以て財を發すとは、人格を物のために犧牲して了ふことであります。人格的生活は、物を支配すべくして、物に支配されてはなりませぬ。物を人格の下位に置くこと、人格によつて物を克服することによつて、吾々の道德的生活が始まるのであります。然るに資本主義と言はず、社會主義と言はず、今日の經濟學者の間に漲る思潮は、物を人格の上位に置く思想、大學の所謂『身を以て財を發す』ところの思想であります。この思想、即ち小人的經濟思想が實際に社會を支配する時、こゝに現はれ來るものはプルートクラシーであります。プルートは黃金、ク

ラシーは力と云ふことで、プルートクラシーは即ち黄金萬能主義であります。今日の社會に於ける數々の不幸、數々の悲慘、數々の禍惡は、私の觀るところでは決して制度や組織に其の根本原因を歸すべきものでなく、實に其の本原をプルートクラシーに發して居るのであります。言換えれば當然人格の下位に立つべきものを、却つて人格の上位に高め、其の支配の下に人間を立たせると云ふことが、今日の社會的悲慘の根原であると私は堅く信じて居ります。故に此の物を過重する思想を改めない限り、如何に外面的制度を改めても、何の善きものをも期待することは出來ませぬ。資本主義及び社會主義は、共に其の抱く所の經濟觀念を棄てねばなりませぬ。棄てゝ大學の所謂『財を以て身を發す』ところの君子的經濟思想を奉じなければなりませぬ。此の思想の上に立つてこそ、初めて經濟組織の改革も意義を生じて來るのであります。

經濟的生活は明白に吾々の生活の一面に過ぎませぬ。吾々の生活には幾多の方面があります。その幾多の方面のうちの一つに過ぎない經濟的活動を、全體から抽象して、それが恰も獨立せるものゝ如く考へ、加ふるに最も優越なるものゝ如く考へることは、明白に思



想上の誤謬であり、其の誤れる思想によつて行動することは不德又は過失であります。故に先づ第一に、經濟的生活は人間の物に關する活動の一面であつて、究極に於て人生全體を律する道德的原則の統制を受くべきものなることを明確に把握しなければ、經濟に關する正しき思想は斷じて成立しませぬ。

而も當初に申上げたやうに、獨り日本と言はず世界の現在に於て、經濟問題が極めて重大なる關心事となつて居ることは事實であります。數々の經濟的悲慘が、拒むべくもなき事實として吾々の眼前に横はつて居ります。所謂社會問題の殆ど總ては、皆な國民の經濟生活に絡はるところの問題であります。是くの如き狀態は必ず改めなければなりませぬ。經濟は古人の所謂利用厚生の道であります。國家は物若しくは自然を、國民全體の生を厚くするやうに支配し統制しなければなりませぬ。今日の現狀を見ますれば、國家生活の自餘の方面には、善かれ惡かれ組織又は統一を與へられて居るに拘らず、經濟的生活は全く自然の儘に放任され、殆ど戰國亂世の狀態であります。これは孰れの點から見ても、吾々の意識する國家の本質に背きます。殊に今日の如く經濟的一面が、人生に於て重要の度を

加へ來れる場合には、尙更之を有效に統制する必要も大を加へるのであります。例へば國民の多數が、朝から晩まで營々として働いても、尙且十分に食ひ、十分に纏ひ、十分に住むことが出來ぬ狀態に置かれ、乃至は働かうとしても仕事を與へられぬ狀態に置かれるとすれば、それは國家の非常なる怠慢と言はねばなりませぬ。國家は國民をして人格的生活を行ふことに努力しなければなりません。然るに今日では、國民の多數は單に生產の道具たるに止まり、道德的本質を長養する機會と餘裕とを與へられて居りませぬ。されば國家が適當なる方法を以て、國民の經濟的生活の統制を行ふことは極めて必要なることゝ信じます。

## 六

次には是迄申上げた經濟思想と密接なる關聯を有する現代の國家思想であります。現代の多數の人々は、個人の幸福又は總個人の幸福を目的として國家が成立して居るものと考へて居ります。前者はルソー又はホッブスの思想で、後者は英國功利主義者の思想であります。この思想は學說としては殆ど葬り去られたに拘らず、不思議にも色々に姿を變へて



今日の多數の人々を實際に支配して居ります。議論は色々矢釜ましいけれど、詮ずるところ資本主義者も社會主義者も、實は國家を以て個人又は總個人の幸福のための方便と考へて居るのであります。而して其の幸福とは、既に申上げたやうに、物質的享樂のことであります。

かやうに國家を以て個人の幸福は公衆の福利を目的とする經濟社會と見ることになるのであります。

一切の機關は、單に此の目的を遂げるための一時の便宜に過ぎぬことゝなり、從つて此の目的に背かざる限りは、政體の如何、主權者の如何は要するに第二義のこと、畢竟は方便の問題となります。されば英吉利の國土は英人必ず之を支配し、獨逸の國土は獨人必ず之を支配せばならぬと云ふ道理なく、君主の如きも此の目的を達する道具に過ぎざるが故に、その國王たると大統領たるとを問ふことなく、便宜に從つて或は君主政體を採り、或は共和政體を採つてよいことになるのであります。

この思想は、論理に於て徹底せず、事實と一致せざるものであります。現實の國家と云ふものは、個人の幸福又は公衆の福利と云ふやうな抽象的概念以外に、一個潑溂たる生命

を原動力として存立して居ります。其の證據には、如何に英吉利人が功利的であつても、茲に彼等より遙に優秀なる民族が出現して、今よりも一層勝れた幸福を與へる政治を行ふからと言つたところで、彼等は斷じて其の支配權を該民族に讓る心配はありません。國家觀念が最も薄弱だと言はれる支那人でさへ、混沌たる四百餘州のうち、僅に生命財產の安全を期し得る租界を、外國の手から回收するために戰つて居るのであります。これは幸福又は福利と云ふやうな抽象的概念で、現實の國家を說明するの不可能なるを示すのみならず、人間の求めて居る所謂幸福なるものが、決して潤澤に衣食住の資を得て、學問藝術を樂しむと云ふやうな事だけではない事を示すものであります。動かすべからざる事實として、英人の幸福は英人のみに特有なる幸福であります。それは英國の發展、英國文明の享受、英國歷史に對する愛着を含む幸福であります。同樣に佛蘭西人猶逸人には、各自夫々の幸福とする所ありて、一國の幸福とするところ、直ちに他國の幸福とするところではありませぬ。幸福又は福利とさへ言へば、何等か萬國に共通普遍なるものがあるやうに主張するのは、事實と抽象とを混同するものであります。

かくて現實の國家は、之を形成する國民の性格、國民の歷史を度外して說明することの出來ぬものであります。卽ち國家は國民的生命の發現であつて、國家一切の機關は、國民的生命が其の生を營むための組織であり、國民の性情を經とし、多年の歷史を緯として鍛え上げられた國民精神が、國家の心血として其の全機關に周流貫通して居るのであります。國家を動かす力は決して幸福を求むる心ではなく、國民的生命其ものであります。國家の機關は國民の心血の通へる機關、國民的生命が發動する必然の道として現はれたる機關であります。固より部分的に見る時には、國家の機關には人工的なる、從つて一時的なる機關もあります。從つて之を改廢することも出來るし、また改廢せねばならぬものもありまするが、國家を全體として見る時には、それは國民的生命の發現に外ならぬ故に、其の重要なる機關を改廢することは、直ちに國民的生命の興亡に關するに至るのであります。吾々日本人にとりては、永遠無窮に一系連綿の天皇を戴き、盡未來際此の國土に據り、絕對に日本歷史を尊重し、祖先の志業を繼承して、飽迄も之を遂行することが、國民的生活の本義であります。

『政府の本務を墜しなば、商法支配所と申すものにて、更に政府には非ざるなり』――これ實に大西郷の言であります。身命を維新日本の建設に獻げた大西郷が、如何に日本を見て居たかと云ふことは、吾々に取りて千卷の机上論に勝る好指南と申さねばなりませぬ。大西郷は國家を以て個人又は總個人の幸福のための方便などゝは考へて居なかつたのであります。支配階級の搾取機關などゝは尚更考へて居りません。大西郷は國家を以て道義的主體と考へたるが故に、國家の生命は『正道を踐み、義を盡す』に在りと信じたのであります。而して此道義的性質を失ひ去れば、國は最早國家に非ず、唯だ一個の營利團體、即ち一個の經濟社會、換言すれば一個の商法支配所に墮落するものと信じ、一身を賭して此爲に戰つたのであります。吾々は大西郷の精神に則りて、現代の國家思想と戰はねばなりませぬ。

## 七

以上の外に尚ほ批評すべき數々の思潮がありますが、時間が許しませんから一々言及することは不可能であります。所謂新しい思想、わけても外來思想のうちには、正しからざるもの誤れるものが多々ありますから、其の一々に就て存分に私の所見を申上げたいのでありますが、今日は到底其暇がありません。さり乍ら、私の意見を待つまでもなく、健全なる國民は、既に其等の思想を所謂『危險』なるものと直覺して居ります。この直覺は、國民的自衛の本能から來るものであります。恰も動物が自己の生命に有害又は不利なるものを、危險思想として直覺するのであります。それ故に此の直覺は重んじなければなりませぬ。そは机上の空論よりも、遙かに適切なる價値判斷を下して居る場合が多いのであります。故に諸君は、一々私の議論を聞かなくとも、諸君の健全なる精神によつて、直覺的判斷を下されゝばよい。そして其判斷に忠實であればよい。理論は常に事實の後塵を拜するだけのものであります。

序でありますから、事實と理論との關係に就て一言して置きます。これは同じく現代思潮の一つである合理主義の批判ともなるのでありますから、一應言及して置くことは無駄でないと存じます。私は實例を以て說明したいと思ひます。太宰春臺の辨道書の中に、斯う云ふ意味の言葉があります――『日本には元來道と云ふものが無かつた。その證據には仁

義禮智信と云ふ人倫の五常に和訓がない。和訓がないのは人間の道が無かつたからである。日本人は支那の聖人の教によつて初めて禽獸から脱却することが出來た』と云ふのであります。此の意見は打ち見たるところ尤ものやうに思はれますが、實は甚しき誤りを敢てして居るのであります。その誤りと申すのは、春臺が事實と説明とを混同して居ることであります。説明がないから事實が無いと云ふ道理は斷じてありません。日本に道德に關する説明が無かつたからと言つて、道德其者が無かつたと云ふのは輕卒な結論であります。吾等の遠き祖先が、果して道德的に生活して居たか居なかつたを確める爲には、祖先の言論でなく、祖先の行動を見なければなりませぬ。

吾々の祖先の行動は、古事紀・日本書記に聊かも包み隱すところなく書き殘されて居ります。此等の古典を讀んでみまするとと、吾々の祖先の生活が極めて莊嚴なるものであつたことを知ることが出來ます。吾々の祖先が所謂『道』を説かなかつたのは、寧ろ道を説く必要がなかつたからであります。例へば胃腑の存在を意識し、其の研究を始めるのは、胃腑に故障が生じた時であります。健康な人は胃腑の存在を意識しません。意識せず説明しな



いからと言つて、胃腑が無いと云ふ道理はありません。道德に關する論義も同樣で、實は人間が道德を行はなくなつた時に却つて盛んになるのであります。この間の消息を老子は『大道廢れて仁義あり』と云ふ一句で適切痛快に道破して居ります。即ち仁義道德の説が矢釜しくなるのは、大道が行はれなくなつたからだと云ふのであります。

世界の歷史を見まするとと、一教一派の祖師が現はれたのは、多く混沌亂離の時代であります。孔子でも基督でも釋迦でも、皆な亂世か亡國か又は衰へかけた世に生れて、人間を正しい路に引き戻さうとした偉人であります。此等の偉人は謂はゞ人間の魂の醫者で、其教は魂の藥であります。藥なるが故に健康者に取りては强過ぎるものが多くあります。基督は右の頰を打たれたら左の頰を出せ、上衣を取られたら下着もやれと教へて居ります。これは當時の猶太人が、是までに言つて聽かせなければ尋常の人間となり得ぬほど貪欲苛察になつて居たからであります。此の藥を日々の糧と思ふのは馬鹿正直と申すもので、實は此等の教訓は一々守らうと思つても守れぬもの、即ち夫れだけでは本當に生命の糧とならぬものであります。だから强いて其通りに生活しやうと思へば、必然無理が生じて動も

すれば僞善的となるのであります。これは佛教でも儒教でも同樣であります。

かくて日本に所謂『教』がなかつたのは、祖先の精神生活の健全なりしことを示すものと思はねばなりませぬ。固より國民的生活に消長弛緩あるは免れぬことで、若し日本に佛教や儒教が傳來されなかつたならば、魂の醫者を國民の中から出したことゝ信じます。幸か不幸か日本人の醫者が出ない前に、外國から醫者が來たので、春臺の力說する仁義禮智信と云ふやうな藥を日本で調合しなかつたゞけであります。併し吾々に取つては、祖先が如何に行動して居たかを知ることが、第一に大切なことであります。吾々は祖先の生活の記錄から、病のための藥でなく、日々の生命の糧を攝取することが出來ます。事實と說明とを混同し、理論を事實よりも重んずることは、現代の一傾向でありますが、吾々は之を脫却しなければなりませぬ。

## 八

さて段々と現代の思潮を批判して參りましたが、只今申上げたやうに此等の思潮は、健全なる國民が既に警戒を加へて居るものであります。然るに世の中には、最も穩健確實と思はれて、實は決して油斷のならぬ思想があります。私は其等の思想のうち、代表的なる一つに就て所見を述べることに致します。

それは東西文明の統一に關する思想であります。即ち日本は西洋の物質文明と、東洋の精神文明とを渾融して、一個新しい文明を創造せねばならぬと云ふ思想であります。大體この思想は、明治日本の創立者の抱いて居たもので、横井小楠先生の言葉にも『三代の治道を講じ、西洋の技術を得、皇國を一新して西洋に普及せよ』とある通りであります。新日本は此の精神によつて建設せられたのでありましたが、後には精神的方面も西洋を崇拜するやうになり、心ある者をして顰蹙せしめたのであります。然るに世界大戰このかた、西洋人のうちに自分の文明を非難し又は呪詛するものが少なからず現れたので、恐らく其の反響と思はれますが、日本でも東洋文明の優越を唱へる聲が次第に高くなり、形而下の事柄は西洋のものを採用しなければならないが、精神的方面は東洋傳統の文明を護持して行かねばならぬと考へるやうになつたのであります。

この傾向は根本に於て欣ぶべきものではあります。さり乍ら此の根本主義を國民生活に

適用するには、深き反省と大なる注意とを要します。然らざる時は思はざる禍を國家の爲に招くことゝ存じます。

多數の人々は、物質上の事柄は、西洋のものを其儘取り入れても差支ないやうに考へて居ります。併し明治以來の經驗を仔細に觀察すれば、西洋の事物を其儘に採用した爲に、數々の不都合を招いて居ります。其の一〻を說明する暇がありませんから先づ手近かな例だけを申上げます。私は植民政策の研究者でありますが、私の研究と關係があり、且今日焦眉の問題となつて居る移民問題に就て申せば、政府が採用して來た政策は全く西洋のそれの模倣であります。然るに此の政策は明白に不成功に終つて居ります。論より證據、必死に海外移民を奬勵しても、國民は出て行かうとしません。何十年骨折つても南米移民の總數は四萬人にも足らぬ始末であります。これで年々八十萬以上も殖える人口問題の解決などには及びも付かぬ話であります。

そこで吾々は、西洋で成功することが、何故吾國で成功せぬかと考へて見なければなりませぬ。私の意見は下の通りであります。西洋では第十九世紀に個人主義が確立されて居



ります。英吉利は言ふ迄もなく、其他の諸國でも、國民は思索し行動する單位を自己一身に置いて居ります。米國などでは親は子供を教育はするが、學校を出てからも親の家に居れば其子から下宿料を取るものさへあると云ふ有樣であります。また英吉利や和蘭は、近世の初頭から商工本位、從つて都市本位の國家になりかけて、農村の人々が鍬を棄てゝ都會に集まり初め、此の傾向が次第に强くなつて、今日では國民の大多數が商人か勞働者になつて居ります。それ故に英國では、一個月海外との交通を斷たれると、國內に食糧がなくなつて飢死しなければならぬ狀態であります。一體商人や勞働者は、土地に對する愛着の少ないものであります。其上に根が個人主義であつて見れば、生活するため乃至發展するためには、さつさと何處へでも出かけるものであります。海外で國內よりも樂に生活が出來るとか、或は儲ける口があるとすれば、どし〳〵移民するのに何の不思議もありません。

日本は全く事情を異にします。日本は六十年以前までは農村本位の國であり、且家族主義の國民であつたのであります。思索し行動する場合には、常に家門を考へ、先祖を念頭

に置いて來た。家風に背くことは許す可からざる罪惡であつたのであります。加ふるに農民であるから祖先傳來の土地に對する愛着は、極めて强大であつたことは言ふ迄もない。明治以來、西洋の感化によつて、職業の上にも思想の上にも、急激にして廣汎なる變化がありましたけれど、國民の多數は今尙家族主義者たる農民であります。從つて日本人に向つて英吉利人や和蘭人の如く氣輕に移民せよと奬めても、決して易々と海外に出る心配はないのであります。現に出て居ないのであるから議論はない筈であります。

かくて吾々は西洋流でなしに日本流の移民方法を考へねばなりませぬ。その方法は私の考へでは日本國民の鄕土を擴張する外に途がないと信じます。天皇の稜威の輝く鄕土に於て、單に經濟的打算からではなく、天皇の國土を見事なものにして行くと云ふ理想を鼓吹してこそ、初めて國民は此の新しい鄕土で生活するやうになるのであります。吾々同胞は概して經濟的能力に乏しいやうであります。滿洲には每年參りますが、支那人と比べて見ると其點が著しく目に付きます。其癖至つて性急短氣でありますから、經濟的發展と云ふ看板で働かそうとすれば、成程働くことは働いても、思ふやうに早くは利益が上がらないので、大抵は中道で挫折します。途上の難關を通り越させるために、利益でなしに理想を與へなければなりません。私は是くの如き實例を、私の最も尊敬する加藤完治君の事業に於て實見して居ります。この希有なる農民指導者は、農村青年に日本的理想を鼓吹することによつて、他人の企及し得さる開墾を山形縣に於て行ひ、前例なき移民の成功を朝鮮群山に於て擧げつゝあります。加藤君は決して損得を以て其の導く青年を勵ましません。而も實際に於ては經濟的打算によつて如何なる此種の計畫よりも、一層經濟的成功を遂げつゝあります。これは吾々に對する深刻なる敎訓と申さねばなりませぬ。

移民政策はもと〳〵人口問題を關聯して起るのであるが、人口問題に對する朝野の態度其者が、第一に吾意を得ませぬ。それは常に人口過剩と云ふ言葉が用ゐられることであります。人口過剩なるが故に、或は出產を制限せよと言ひ、或は移民を奬勵せよと言ひます。人口過剩とは一體何事であるか。吾々日本民族は、實に『天の益人』であり、天皇の『大御寶』である。天の益人とは、日本民族の繁殖發展に伴ひて、それだけ天意が地上に實現され、それだけ天業が恢弘されると云ふ雄渾森嚴なる理想信仰の下に、吾々の祖先が自ら呼

んだ名稱である。多ければ多いほど喜ばねばならぬ道理である。若し國內の自然資源が、此の天の益人を養ふに足らぬとすれば、之を獲得する途を拓けば宜しい。然るを主客顚倒して人口過剩とは、以ての外の取沙汰である。かやうな言葉遣ひをする者は、如何に愛國的な議論をしても、所詮皇國精神の體得者に非ざるが故に、サンガー夫人崇拜者と同じ立場に在るものと言はねばならぬ。等しく西洋流に此の問題を取扱つて居るのであります。吾々は之を日本的に考へ、日本的に解決せねばなりませぬ。ひとり人口問題のみならず、國家生活のうちに起る一切の問題に對して、また徹底して日本的でなければなりません。かくて吾々は、社會的の施設、政治上の制度に於ても、直ちに歐米のそれを採用することを愼まねばならぬと思ひます。現に貿易奬勵の如きも、盲目的に西洋に倣つた爲に次第に國家に禍を與へんとしつゝある誤れる經濟政策の一つであります。

故に吾々は東西文明の統一と云ふことを考へる前に、寧ろ日本文明の發展と云ふことを念とすべきであります。日本精神が堅固に把握されてこそ、初めて異邦思想又は異邦文明に對して正しき批判を下すことが出來ます。日蓮は『彼國に好き法なれば、此國にも好しとは思ふべからず』と申して居ります。同じ東洋に現はれた佛敎のうちでも、日本に取入れてよい信仰と然らざるものとがある。支那思想また同樣であつて、儒敎のうちにも斷じて日本に許してならぬ思想が含まれて居ります。のみならず西洋の思想のうちに、幾多の貴重なるものあることも言ふを待たないことであります。要は日本精神の確立が第一であります。此の精神を確立して、日本的に考へ、日本的に行つて進みさへすれば、決して國歩を誤ることはないと信じます。玆に吾々の現代思潮批判の最後の立場を明かにして、此の講演の段落と致します。（本會主催全國敎化事業關係代表者大會講演）

323
138

昭和四年五月十五日印刷
昭和四年五月二十日發行

【定價金七錢】

財團法人中央教化團體聯合會
東京市麹町區大手町
内務省社會局分室
振替東京七一七八二

發行人　佐野高藏

印刷所　杉田屋印刷所
東京市麹町區麹町八丁目

印刷人　杉田彌太郎
電話九段 ㊇一一〇二

財團法人中央教化團體聯合會刊行パンフレット

## 最新刊

輯別　書名　著述者　定價

六九　人口問題と移民　東京帝國大學教授　矢内原忠雄　一〇錢
七〇　海外に於ける邦人の活躍　外務書記官　石射猪太郎　八錢
七一　東部亞細亞の情勢と邦人の發展　滿鐵東京支店長　入江海平　七錢
七二　アマゾン河地方の事情　鐘紡取締役　福原八郎　八錢
七三　國際移民問題　東京市政調査會理事長　前田多門　七錢
七四　普選と國民の教養　前社會局社會部長　守屋榮夫　七錢
七五　世界平和と軍縮問題　海軍中將　野村吉三郎　七錢
七六　家族制度の將來　法學博士　穗積重遠　一八錢
七七　御大典に就て　文學博士　關根正直　一八錢
七八　社會思想の發生　文學博士　深作安文　一〇錢
七九　勞働問題の本質とその運動　前社會局勞働部長　河原田稼吉　一五錢
八〇　昭和二年の社會事業を顧みて　前社會局社會部長　守屋榮夫　一五錢
八一　人口及食糧問題　農學博士　東郷實　一〇錢
八二　時代思潮の常識的批判　前特命全權大使　本多熊太郎　八錢
八三　世界大勢の誤解と正判　法學博士　蜷川新　八錢
八四　御聖德を拜し奉りて　四錢

既刊八十餘種・申込次第書目送呈

振替口座・東京七一七八二番

終